

急速に改善されるジャカルタの公共交通：バス編

中川 智明

今回からシリーズで、ジャカルタの公共交通事情についてお伝えしていきます。今回はバス編です。

現在でもジャカルタへ駐在員を派遣している会社の多くは、「現地の公共交通は利用しない」や「現地のバスは利用しない」などのルールがあり、その裏には客観的に認識されるリスクがあると思われます。以下の文書は、私なりに自己責任で行動しジャカルタで蓄えた知見や経験であり、同じように行動した方の安全を保障するものではありませんのでご了承ください。

＜トランスジャカルタなどの公共バスの整備＞

2017 年に専用高架道を走行するトランスジャカルタが開業しました。一部路線では 24 時間営業し、かつ、運賃は改札を出なければどこまで行っても 3,500 ルピア（30 円程度）と格安です。使いこなせばとても便利でお得なのですが、インドネシアという国はそもそも観光客等に対して「気の利いた案内」のようなものを提示する国ではないので、慣れないとなかなか難しい面もあります。

＜公共バスの犯罪対策＞

私がインドネシアに関与するようになった 2010 年頃は、インドネシアのバスというと、事実是不明ですが、「スリのような悪人がたくさん乗車していて、日本人が乗ることはとても不可能な乗り物」という印象でした。

最近の状況は、私の主観ですが、特にジャカルタの大通りを走るトランスジャカルタは、かなり安全度は高いと思います。トランスジャカルタが開業して間もなく乗り始め既に 100 回以上は利用しています。大通り路線には、運転手の他に男性係員も乗っています。また、大通り路線は通りに面した大きなビルの比較的良好と言われる会社に勤めている人が乗っている印象です。このような状況ですが、私は特にスリに対しては気を付けており、鞆は必ず自分の前に抱え込み、ポケットなどには財布は入れないようにしています。現地の人もこの程度の注意はしているようですので、日本人は現地の人以上に注意しておくべきです。

＜日本と異なる乗降時の意思表示＞

乗降時の日本と違う点は、乗る時は「乗りたい！！！」と、降りる時は「降りたい！！！」とハッキリ態度で示す必要があります。そうしないと、他のバス待ちの人壁に遮られて乗れないことや、自分が降りたいバス停で止まってもらえないことがありますので、手を挙げてグイグイ人を掻き分けて乗り込む必要があります。降りる時も同じです。上品にしていると誰もこちらの思いを分かってくれませんが、手を挙げてグイグイいくと、わりとインドネシア人の皆さんは優しく通してくれます。



【バスに乗るインドネシアの人々】

＜国民性の違い＞

インドネシア人の行動で日本人と異なる点は、バスが混雑してドア周辺がふさがってくると、そこに無理に乗り込もうとしません。東京の山手線などではあふれる人を駅員が押し入れています。その動画を見た弊社職員は「日本はすごい。。。」と感心していました。うらやましいことにインドネシア人はのんびり待ちます。ある種の彼らの「豊かさ」を感じる瞬間です。

また、インドネシア人はドア周辺が混雑している時に、乗ってくる人のために移動してドア周辺のスペースを空けるようなことはしません。悪意はなく、「気にしない」「気付かない」のだと思います。彼らはよくも悪くも、日本人のように他人を気にしないのです。